

# 災害復旧技術専門家を山形県飯豊町、長井市に派遣

公益社団法人 全国防災協会

(公社)全国防災協会では、市町村をはじめとする被災公共土木施設の早期復旧支援に向け、平成15年11月に「災害復旧技術専門家派遣制度」を創設しました。災害復旧技術専門家は、国や都道府県の災害復旧業務に長年携わり、制度を熟知し災害復旧事業に関する高度な技術的知見を有する経験豊富な技術者（本省防災課の災害査定官経験者や都道府県の防災担当の本庁課長級及び事務所長等経験者で構成）で、北海道から沖縄までの全国に、395名（令和4年10月18日）が登録されています。

平成26年5月には、国土交通省水管理・国土保全局防災課より「災害復旧・改良復旧事業の技術的助

言などの支援（試行）について」の通達が出され、TEC-FORCEが出動した大規模災害で、被災自治体から本省防災課に要請があり、防災課が必要と判断する場合、**全国防災協会が無償で技術専門家を派遣**するなど、制度を充実してきています。これまでも多くの地方公共団体等の要請に応じ、多くの災害復旧技術専門家を派遣し、迅速かつ確かな災害復旧事業の促進に寄与しています。

今回、令和4年8月3日からの大雨による災害に対して、通達に基づき山形県飯豊町・長井市に3名の災害復旧技術専門家を派遣し、復旧工法などについて技術的助言を行いました。

## 派遣概要

### 1.

#### 【気象の状況】

東北地方に停滞した前線や低気圧に向かって、台風第6号を起源とする暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が非常に不安定となった影響で、山形県では置賜を中心に積乱雲が発達し、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続き、3日昼過ぎから4日未明までに、気象庁が記録的短時間大雨情報を6回発表したほか、山形地方気象台では、3日19時15分に米沢市、長井市、南陽市、高畠町、飯豊町、川西町に対して大雨特別警報（浸水害）を発表するなど、これまでに経験したことのないような大雨となった。

#### 【大雨の状況】

12日12時から5日12時までの総降水量は、飯豊町高峰で311.0ミリ、長井で243.5ミリ、飯豊町中津川で194.0ミリを観測した。なお、長井では1時間降水量72.5ミリ、3時間降水量115.5ミリ、24時間降水量241.5ミリの観測史上1位の降水量を観測した

ほか、飯豊町高峰で3時間降水量、及び24時間降水量が観測史上1位となるなど記録的な大雨となった。（山形県災害時気象資料、山形地方気象台より）

### 2. 派遣された災害復旧技術専門家（敬称略）

派遣日：令和4年9月15日（木）

派遣者：佐藤 清（西松建設株 北日本支社）  
山科 勝嗣（(一社)東北地域づくり協会 山形支所）  
小松喜巳男（那須建設株）

### 3. 活動報告（支援・助言内容）

調査行程

西置賜地域振興局概要説明

↓

福田橋（長井市）

↓

町道大平線（飯豊町）

一級河川 萩生川（飯豊町）

↓

調査結果報告会（飯豊町役場 会議室）

## ◆長井市

- 1) 地先名：山形県長井市泉 地先  
 2) 災害状況：平成4年8月3日から4日に降った時間雨量50mm、24時間降水量240mmを越える豪雨により一級河川福田川の水位が上昇し、右岸の橋台と橋脚の被災および左岸の橋脚護岸の空洞化が確認された。

## 3) 助言内容

## ① 福田橋

- ・右岸の橋台と橋脚は、外観からも被災が確認できる。
- ・左岸橋脚は、護岸の空洞化が認められるので、機能は喪失していると思われる。
- ・左岸橋台は、被災は確認できないが、施工上取り壊しが生じるか確認のこと。
- ・上部工は、被災は認められない。
- ・以上から判断し、上部工を再利用した架け替えと全橋架け替えを経済比較の上、復旧工法を決定すること。

## 現地調査



## ◆飯豊町

- 1) 地先名：西置賜郡飯豊町萩生 地先  
 2) 災害状況：平成4年8月3日から4日に降った時間雨量40mm、24時間降水量290mmを越える豪雨により一級河川萩生川沿いの町道大平線は、上流域では豪雨による道路の決壊及び山側側面の崩壊、中流域では萩生川からの側方浸食による道路の欠壊及び流失、下流域では萩生川からの大量の土砂流出による河道・道路の埋塞及び溢水による道路の流失が確認された

## 3) 助言内容

## ① 町道 大平線

- ・埋塞土砂を町道被災箇所に運搬することにより、旧地盤まで復旧が可能であることから、おおむね路盤高以上の復旧でよいと思われる。
- ・山側からの土砂流出による崩土箇所は、待受式擁壁工および落石防止工を検討すること。

## ② 一級河川 萩生川（上流部）

- ・萩生川の被災は、計画規模1/400（24時間雨量）程度と想定されるが、1/30（時間雨量）程度で整備されている他河川と比較すると、仮に1/400規模としても、改良復旧することは過大である。
- ・したがって原形での復旧でよいと思われる。
- ・現況河道については上下流の川幅および床固の水通し幅相当でよいと思われる。

## 現地調査



町道 大平線



一級河川 萩生川



取材状況



概要説明



調査結果報告会（飯豊町役場 会議室）

## 4. コメント

## ◆派遣災害復旧技術専門家コメント



## 山形県飯豊町、長井市から要請を受けて

さとう きよし 佐藤 清 (所属：西松建設(株)北日本支社)

2年振り5回目の派遣です。せっかく防災協会から空調服を用意してもらいましたが、暑さを甘く見、会社支給の作業服で行ったことが、終わってからの反省会が高くついた原因となりました。

災害復旧技術専門家派遣制度は、まだまだ認知度は低く、さらなる制度周知について検討しているところです。このため、このように要請があると使命感を持つことは当然ですが、うれしさも大いに感じる場所であり、要請者に役立つアドバイスは当然のこと、再度の要請または他の自治体からも要請があるよう心掛けています。

今回の現場は、県管理河川が壊滅的に被災し、並行して走る町道もほぼ全区間被災の複合的な現場でした。このような場合、河川と道路の一体的な復旧工法が必要となりますが、管理者が異なる場合や激甚な災害の場合は、調整が困難な場合もあります。

専門家派遣は、原則一災害一回としていますが、このような大規模災害の場合は、発災直後に復旧方針の調整を行い、ある程度工法の骨子が見えてきた段階で再度、現地調整を行う等の、二段階派遣についても柔軟に応じる等の方法も検討しなければならないと感じた現場でありました。

令和4年8月山形県飯豊町・長井市豪雨災害の  
技術専門家活動について

やましな かつし 山科 勝嗣 (所属：(一社)東北地域づくり協会山形支所)

8月3日からの前線性豪雨に伴い、24時間雨量が290mmを越え、線状降水帯も発生し、その結果山形県置賜地域の至る所で甚大な被害を被った。

専門家として派遣されたのは長井市、飯豊町である。

長井市の市道に架かる福田橋では、河床洗掘及び側方侵食により下部工、取付護岸が被災、護岸においては死に体の箇所も見受けられた。

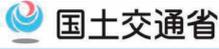
町道大平線は、山間部の急流河川沿いに位置し、想定外の洪水流量の流下に伴い、道路への越水及び側方侵食を受けて道路の崩壊、流出したものと考えられた。

専門家は地元に通じている県OBを含めて3名でこれら被災メカニズムをもとに原形復旧のみならず再度災害防止等を踏まえて適切な助言に心掛けた。

自治体の担当者は初めて災害復旧を担当する方も多く、専門家派遣制度は有益な制度であり専門家として如何に分かりやすく助言するかが鍵です。

今後も理解しやすい的確な助言が出来るよう自己研鑽に努めていきたいと思えます。

5. 災害復旧技術専門家派遣フロー

災害復旧・改良復旧事業の技術的助言などの自治体支援 

- 被災自治体のマンパワー不足、技術力不足により、適切な災害復旧事業の実施に際し、被災自治体の大きな負担となっている。
- 災害発生時に被災自治体が災害復旧や改良復旧の計画立案するためのマンパワーや技術力の不足を補うため、**平成26年より災害復旧技術専門家派遣制度を試行的に運用する。**
- 本制度は、TEC-FORCEが出動した大規模災害で、被災自治体から本省防災課に要請があり、防災課が必要と判断する場合、**防災協会より無償で専門家を派遣する制度。**



東日本被災状況(宮城県岩沼市)



東日本被災状況(千葉県成田市)



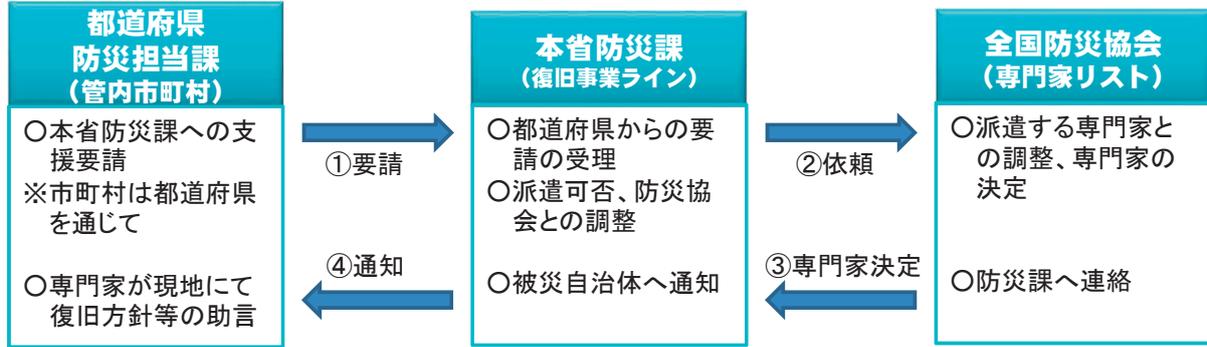
東日本被災状況(千葉県浦安市)



台風26号による土砂災害(伊豆大島)

被災が基大化・多様化している中、多くの自治体で最適な復旧工法検討をする人員・技術力が不足している

<手続きのフロー図>



◎手続き

- 被災自治体（都道府県・指定都市）から防災課へ要請する。  
※市町村（指定都市を除く）は都道府県を通じて防災課へ要請する。
- 防災課から防災協会へ専門家の派遣を依頼する。

- 防災協会が派遣する専門家を決定。防災課へ連絡する。
- 派遣内容を防災課から要請のあった被災自治体へ通知し、派遣の日程を調整する。
- 派遣された専門家が現地にて復旧方針等の助言を行う。